



情報科学芸術大学院大学附属図書館



vol. 8

2017.11

# IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



鈴木宣也著書

## 特集 ヴィジュアルシンキング 鈴木宣也

→自著を語る／思い出の一冊／学生に薦める一冊

- 図書館を活用する
- 岐阜おおがきビエンナーレ 2017
- お知らせ



この特集では、IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第8回は、研究科長の鈴木宣也教授です。

## →自著を語る

### James Gibson, 小林茂, 鈴木宣也, 赤羽亨著『アイデアスケッチ-アイデアを〈醸成〉するためのワークショップ実践ガイド』

IAMASの教員4名で執筆し先日発売したばかりの書籍です。10年間以上培われた視覚的ブレインストーミング手法アイデアスケッチのノウハウを、誰もが実践できるようわかりやすく解説しました。アイデアスケッチはジェームス先生がガングプロジェクト時にはじめた手法で、さまざまなプロジェクトで活用されるなかで熟成してきました。アイデアスケッチによるアイデアの視覚化は誰でも簡単に理解しやすいだけではなく、多様な分野の教員と学生が様々な研究課題にプロジェクトベースで共創していくため、分野間のコミュニケーションを円滑にし、共有していくためにも効果的に機能していきます。そのようなノウハウをIAMAS内の研究教育に活かしていましたが、共同研究や学外でのワークショップや紹介をしていくなかで、体験された方々からの要望もあり出版することとなりました。装丁デザインは田中佐季さん、イラストは高見知里さん、共に卒業生が担当し、IAMASからの出版物のような書籍です。

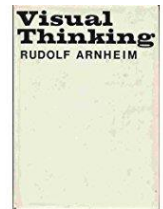


ピー・エヌ・エヌ新社  
／2017年

## →思い出の一冊

### ルドルフ・アルンハイム著『Visual Thinking (視覚的思考-創造心理学の世界)』

今回の特集では視覚をテーマとした3冊の本を選びました。その中でも本書『Visual Thinking』はその原点とも言えます。アルンハイムはドイツ出身の心理学者であり、ゲシュタルト心理学の観点から、視覚的芸術における心理学的構造を分析し、視覚と芸術に関する多くの書籍を残しています。目を通して受け取る情報と、情報を扱う処理の間に、明瞭な区別をすると組織化しやすいという点があります。しかし、知覚と思考は不可分に絡み合い、本来の視覚を知覚と認知のように切り分けて語ることは難しいのです。むしろ視覚そのものは創造的、あるいは想像的な世界の把握であり、見ることと、考えることと、創造することとは一体のものとして捉えることについて、心理学だけではなく多様な事例から述べています。また、受動的受容は視覚のごく一部分で、知覚的探索から生まれる世界は受動的にはあたえられず、本来的な能動的な活動としての視覚のはたらきを覚醒させ、導くことが重要であると述べています。アルンハイムも最後に述べていますが、視覚のはたらきは芸術などの表現活動だけに限ったものではなく、すべての人の活動に当てはまり必要とされることであり、すべての皆さんに読んでいただくと良い一冊です。

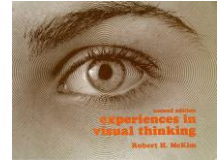


University of California  
Press／1969年

## →学生に薦める一冊

### Robert H. McKim 『Experiences in visual thinking』

ロバートマッキムはスタンフォード大学の機械工学科でプロダクトデザインプログラムという授業を始めた教授であり、その授業は40年以上の現在も続いています。その最初にまとめた本が『Experiences in visual thinking』です。「視覚的思考 (visual thinking)」とは、前に紹介したアルンハイムの書籍から引用した言葉です。見て、想像し、描くことを通じて、潜在的な意識を表出しながら考える力のことであり、そうした思考を養うことを目標としています。本書はその最初のきっかけを提供する教科書として、現代の画一的な教育が見落としている一面に気付き、意識化していない考え方を活用すること、考える力や考える範囲を拡張することを目的とし、これらを獲得する方法を実践例を紹介しながら提案するものです。機械工学科の授業の内容ではありますが、見ることと描くことに対する心理学的な解説や、アイデアの発想に向けた準備など、どの分野でも活用できる内容です。それはまさにアイデアスケッチの原点のような書籍であり、描いて考えるための基礎を知ることができます。古い書籍で翻訳もされていませんが、是非おすすめしたい1冊です。



Brooks/Cole Pub. Co.  
/1972年

## 図書館を活用する その2 蔵書検索のカンどころ

図書館のWebサイト (iamas.ac.jp/lib/) を見てほしい。画面中央には蔵書検索のための検索ボックスが設置してある。探している本のタイトルや著者名を入力することで、図書館で所蔵している本の一覧が表示される。IAMASの図書館では、今年の7月末に画面デザインを一新し、検索結果画面が見やすくなった。

蔵書検索には、詳細検索画面も用意している。検索ボックスの右にある「詳細検索」ボタンから検索画面に移動できる。タイトルや著者名など、検索キーワードが本の情報のどこに含まれているかを指定し絞り込んで検索したい場合に使える。村上春樹についての本ではなく、村上春樹が書いた本を探すなら、著者名に村上春樹と入力して検索しよう。

図書館の蔵書検索が苦手とすることもある。Googleでは多少の打ち間違いを気にすることなく、検索結果を返してくれる。しかし、蔵書検索では、あいまいなキーワードによる検索機能が十分ではない。漢字表記のゆれ、例えば「子ども」と「子供」では、別のもつみなしてしまう。その場合は、ことばの“ヨミ”で検索してみるとよい。「こども」と入力すれば、「子ども」も「子供」も探してくる。図書館の蔵書検索を利用するときには、このようなことにも気をつけると、より資料を見つけやすくなる。

7月のリニューアルでは、詳細検索画面の上部にメニューができた。そのなかの新着図書のパネルでは、新着図書の情報が随時更新されているので、気になる本がないかチェックするのもよい。

新しくなった蔵書検索を活用して、図書館を研究にぜひ役立ててほしい。



図書館 Web サイト



詳細検索画面

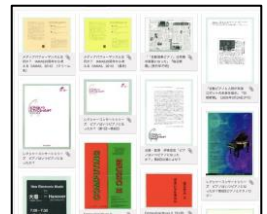
# 「岐阜おおがきビエンナーレ2017 新しい時代 メディア・アート研究事始め」について

本学は、2016年度に開学20周年を迎えました。第7回目となる今回のビエンナーレは、本学と軌を一に展開してきたメディア・アートを、性格の異なる3人の作家、藤幡正樹、三輪眞弘、久保田晃弘の活動からひもときます。美術、音楽、工学を背景に、コンピュータと人間の関わり方を表現として、その時々に見出された、多様な「新しい時代」を、シンポジウムと資料展示から検証します。

メディア・アートが追及してきたコンピュータと人間の関わり方は、現在では、日常生活の深部と接地しています。しかしながら、メディア・アートが培った表現や設計に関わる行為遂行的（パフォーマンス的）な思想は、一過性の現象として見過ごされがちです。こうした言説の再配置を目的としたメディア・アートに関する議論の生成を、いま「新しい時代」と位置付け、岐阜おおがきビエンナーレ2017を開催します。

昨年度から図書館アーカイブ・プロジェクトの一環として実施してきた研究成果を、本展の資料展示として公開します。資料のあり方も、前述のように、美術、音楽、工学それぞれを背景にする差異が現れています。美術を背景とした藤幡正樹の資料は、メディア・アートのためのドローイングを中心としています。音楽を背景とした三輪眞弘の資料は、作品を発表する催事の資料が中心であり、コンサートのチラシやプログラム、演奏会の後に掲載された批評などがあります。工学を背景にした久保田晃弘の2000年以降のライブ・コーディングに着目した資料は、コードと、それが実行されたコンピュータ内部で録音された生成の記録が中心になります。

図書館では、三輪眞弘資料と久保田晃弘資料の展示を、東京国立近代美術館のリノベーション等で知られる建築家、西澤徹夫が会場構成を担当します。図書館の機能を拡張した資料展示をコンセプトに実施される会場構成にも注目してください。また、AtoMというアーカイビング・ソフトウェアを活用した、資料の記述も準備を進めています。ビエンナーレに止まらず、こうした資料の記述への着目と公開を通じて、メディア・アートに関する先導的な研究拠点として、大学院の図書館としての機能強化も図られることとなります。「岐阜おおがきビエンナーレ2017 新しい時代 メディア・アート研究事始め」ご期待ください（文責：松井茂）。



AtoMの画面（三輪眞弘資料）

会期：2017年12月19日（火）—24日（日）11:00~19:00 ※22、23日は20:00まで  
会場：IAMAS附属図書館 ギャラリー1、2 シアター セミナーホール  
主催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、大垣市 URL: <http://www.iamas.ac.jp/biennale17/>

## お知らせ

### →「今週の一冊」が第150冊を達成

毎週木曜日にIAMAS図書館・アーカイブ・プロジェクトの一環として小林昌廣先生による「今週の一冊」を開催しています。2014年度に第1冊『舟を編む』（三浦しん著）ではじまったこのイベントも、10月26日で第150冊となり、のべ1,100人以上の方にご参加いただきました。第150冊に紹介された本は、フォーコーの『臨床医学の誕生』でした。

図書館のWebサイトではこれまでに紹介された150冊のリストをご覧ください。また、図書館内には150冊すべての本を展示し、貸出もしています（一部、貸出できない本もあります）。

これからも、毎週一冊の本を紹介していきますので、ぜひご参加ください。

